

# 総合的な学習の時間における野外体験教育

長崎大学教育学部附属教育実践総合センター 小原達朗

## Ⅰ. 教育の基調の転換

今日の教育改革の出発点は、社会の激しい変化にどう適応するかではなく、様々な軋轢の中を人間としてどう生きるかを考えるところにある。社会の変化に主体的に対応する積極性が求められており、社会の変化に順応するという消極的なものでなく、人間が人間らしく生きることや、自らの考えと責任で行動することなど、人間としてのあり方、生き方を追求する教育の実現が課題とされている。

これまでの教育は、学校教育の内容として扱われる文化、情報、知識などの学校知すなわち「内容知」に重点が置かれていたといわざるを得ない。そのために情報化社会における内容知重視の教育は、機械的な情報の詰め込みを強要し、知識が生活と遊離した学力の剝離現象を生じさせてきた。この内容知教育を克服するために、いかに学ぶか、知の獲得にどのように迫るかという、学び方に関わる「方法知」教育を取り入れる必要性が生じてきているのである。

そのひとつが「体験（感覚的認識）を概念化（知性、科学的見方、考え方を通して経験とする）し、実践（表現、行動）するサイクル」である「過程を重視する教育」であり、ふたつ目が問題追究のプロセスや解決の道筋の自分の型を獲得させ、個と集団の関わりの中での学び方の定着を図る「方法知を重視する教育」である。さらに人間形成を最終目標とする学校教育の原点に立ち戻れば、共に学び共に高まり合う「共生の教育」であるといえる。

このような背景のもとに体験的・問題解決的な学習、多様な学習形態、人材活用および地域・環境活用を図りながら推し進められようとしているものが総合的な学習の時間である。一方、子どもの実態については、自分が生き生きしていると感じる条件として自分や仲間との達成感、熱中感、友情感、感動、活動、チャレンジ性が上げられており<sup>1)</sup>、子どもたちの側でも体験的で心情に訴えるような活動を望んでいる様子を窺い知ることができる。

本論では、教育の基調の転換を踏まえて、今日の教育のキーワードとして位置付けられている「生きる力」を育むための新しい教育の枠組みとして設定された「総合的な学習の時間」に対して、体験的な学習であり子どもたちの望む実態に最も近いと考えられる野外体験教育が密接な関連にあることを分析的に論述し、具体的な実践方法を提案するものである。

## Ⅱ. 総合的な学習の時間の再考<sup>2)</sup>

### 1. 創設の背景

総合的な学習の時間は、平成10年12月に告示された新学習指導要領（小・中学校）において、小学校（3年以上）・中学校・高等学校共通に設定された。その創設の背景を整理するとともに、あらためて創設の背景・ねらい・活動について確認しておきたい。

- ①学校としての特色ある教育活動の推進…自校化→自己責任教育
- ②変化に主体的に対応する資質・能力の育成
- ③分化から総合へ
  - ・教科を越える
  - ・教科間の関連づけ（意図的に統合を図る。従来、統合は子どもまかせ。）
- ④教育課題に重点的・集中的に取り組める場・時間・枠として
  - ・全教育課程を通じてという従来の考え方では、現代の子どもを対象にして課題に効果的に迫ることができなかった。
- ⑤横断的・総合的な学習の展開の必要性
  - ・横断的学習…教科を縦に横に組み合わせて現代社会の課題を織り込む。  
相関カリキュラム、クロスカリキュラム、  
（イギリスの例：産業と経済、公民、進路、生き方、環境、健康）
  - ・総合的な学習…学習課題を基盤にして教科の枠にとらわれずに、自然体験やボランティアなど  
社会体験といった実体験、調査、生産活動などの体験的・問題解決的学習。

## 2. ねらい

- ①問題解決力
  - ・自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質能力
- ②主体的・創造的態度
  - ・学びやものの考え方を身につけ、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度の育成
- ③生き方の自覚
  - ・自己の生き方を考える力の育成

## 3. 期待される活動

- ①横断的・総合的な課題
  - ・国際理解、情報、環境、福祉、健康など
- ②興味や関心に基づく課題（結果的には①、③、④に含まれる場合もある）
- ③地域や学校の特色に応じた課題（問題解決的な学習）
  - ・知的好奇心、探究心、自ら学ぶ意欲や主体的に学ぶ力
  - ・論理的に考え判断する力
  - ・自分の考えや思いを的確に表現する力
  - ・問題を発見し解決する力
- ④作業・体験的学習
  - ・生活体験（食事、調理、仕事、家事、金銭活用など）
  - ・社会体験（友だち、近隣の人々や出来事、行事、ボランティア、人権など）
  - ・文化体験（制作、クラフト、鑑賞など）
  - ・自然体験（遊び、キャンプ、飼育、栽培、感動など）
  - ・農業体験（植付け、生育管理、収穫、たい肥づくりなど）

#### 4. 評価

①活動と評価の一体化 ②よき発見 ③プロセス評価 ④自己評価と相互評価 ⑤ポートフォリオ

### Ⅲ. 野外体験教育の新たな視点

#### 1. 共生の第一歩は「感性」

野外体験教育を総合的な学習の時間として取り上げる際にまず考えなければならない点は、野外体験教育によって育てたい力は何かという「ねらい」である。計画された活動自体にも学習のねらいがあるが、野外体験教育の特性を最も生かせるものが「共生の教育」という方法知であろう。

共生の教育とは具体的にどのような教育なのか。共に生きるための力あるいは能力があるとすればそれは「感性」であろう。感性とは、ひとや自然を感じる「心の眼」であり、自己と他者を交流させる「フィルター」である。澄んだきれいな海をみて素晴らしいと感じる気持ちや逆にゴミで汚れた海をみて不快に思う気持ちが感性であり、ひとの喜怒哀楽を敏感に感じ、共感できる気持ちも感性である。感性は、知識として理解して獲得できるものではなく、ひとと機械との関わりを通じて育てることも困難である。ひととひと、ひとと自然との直接の関わりを通じて気持ちが揺さぶられることで身についてくるのである。

#### 2. 共生の教育としてのこれからの野外教育

感性を育てることを「育てたい力」とした場合の野外体験教育を設定するにあたっての考え方について以下に取り上げ、総合的な学習の時間としての方向性を提案したい。

- (1)プログラムに沿ってイベントや行事に参加するような従来の野外教育は「野外活動（野活）」である。
- (2)生きる力だけではひとは生きてゆけない。いかに生きるか（生き方）、誰と生きるか、誰とでも生きる（生かす力）こと、すなわち共生が必要である。
- (3)共生の教育としての野外教育は「生き方」「生きる力」「生かす力」を発揮できるような「場の設定」や「意味づけ」をすることによって可能になる。
- (4)共生の教育の枠組みのなかでの野外教育は、野外教育ではなく「生命」「共生」「生き方」というテーマの総合的な学習の時間を可能にする。

#### 3. 「生きる力」と野外教育のねらいとの関連

「生きる力」は、社会の変化に対し自ら課題を発見し、考え、主体的判断と行動をとる能力、自律的で協調性や思いやりのある豊かな人間性、健全な心身の3つを主な柱としている。最近の学校や教育に対する提言や答申を整理する形で文部科学省は平成14年1月に確かな学力の向上のための2002アピール「学びのすすめ」を発表した。この中では生きる力が、確かな学力、心の教育、たくましい体として簡明に提示されている。この3点について野外体験教育のねらいとの関連を明らかにしたい。

##### (1)確かな学力とは

○自ら課題発見し、考え、主体的に判断し行動する⇒課題解決能力であり、

- ・プログラムに沿った課題解決（準備、設営、調理、制作、イベントなどを通して）
- ・自己コントロールの課題解決（家を離れる不安、仲間づくりの不安、健康をコントロールするなど）
- ・活動の手引き作成や成果報告の課題解決である。

## (2)心の教育とは

- 自律・協調・思いやり・感動を通した⇒豊かな人間性の育成であり、
- ・野外生活、宿泊生活、プログラムを遂行するなかに内蔵されているものであり、
- ・「生かす力」の場の設定…生きることは他者との共存で成り立っていることの認識を持たせることである。

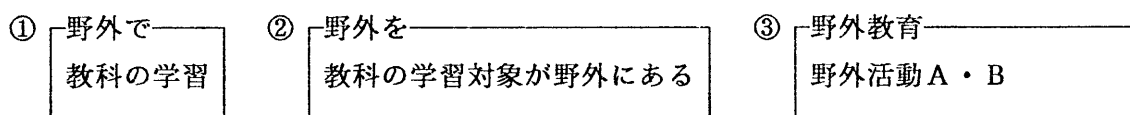
## (3)たくましい体とは

- 心身の健全性⇒健康・体力の維持・増進であり、
- ・自然環境の心とからだへの刺激、適度な（十分な）運動、楽しい食事、規則正しい生活で育まれるものである。

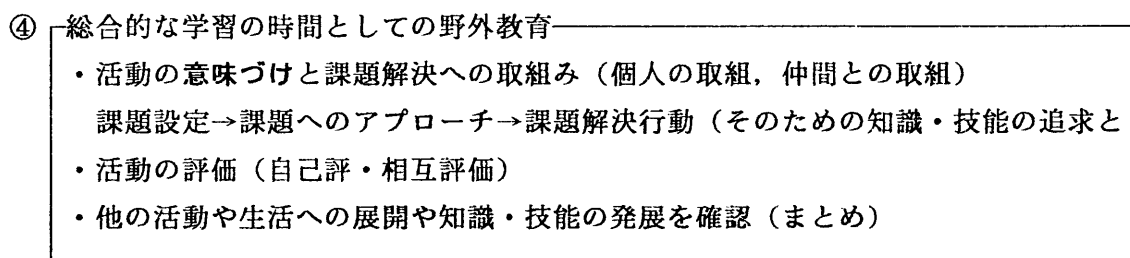
## IV. 総合的な学習の時間としての野外教育

### 1. 野外での活動

野外で行われる教育活動の大きなねらいは、一言で述べると「リアリティの教育」ということになる。教室という枠の中での静的想像的な世界に対して、ダイナミックで直接的な体験による効果を期待して行われるものである。しかし、野外での活動には以下の4つの類型が考えられる。特に④の型は、総合的な学習の時間型といえるものであり、いわゆる「野活」ではない。また、活動の「意味づけ」が重要な学習となる。



①②③は、従来の野外教育（野外活動）



### 2. 体験活用型の学習

従来の宿泊学習や野外体験学習を体験的なねらいとするものから体験活用型に作り変えることで総合的な学習の時間への転換を図ることが可能である。

- (1)施設活用型……自然の家の自然環境そのものを活用するもの（沢のぼり、オリエンテーリングなどで例えば“健康教育”）
- (2)技術・人材活用型…自然の家にある道具やその使用、指導の人材を活用するもの（そば打ち、たい肥づくりなどで例えば“環境教育”）
- (3)活動活用型……自然の家を通じた活動（思い出）を情報や教科の学習に展開するもの

(活動を素材として作文集、新聞、ビデオ編集、ホームページなどに活用)

※一回の野外体験学習の機会に①②③を適切に組み合わせることで活動の総合性と学習内容の総合性が確保されることも考えられる。

### 3. 総合的な学習の時間としての野外教育の一例

これまで述べてきた総合的な学習の時間のねらいや期待される活動の作業・体験的学習に、共生の教育としての野外教育、生きる力と野外教育、そして総合的な学習の時間としての野外教育を念頭に置いてひとつの単元を以下に設定し、野外体験教育が総合的な学習の時間として時間的にも内容的にもまた教育活動として十分実践できることを仮説的に検証したい。

#### 【単元計画】

単元名：共生の学習 — 縄文の家をつくって暮らそう —

ねらい（身につけたい力）：

- ①関心をもって自らテーマに取り組むことができる。（課題発見）
- ②主体的に方法や手段を判断し、実践に向かうことができる。（課題解決・段取り力）
- ③自分の能力を知り、友だちの能力をみとめることができる。（豊かな人間性）
- ④自然の原理を学び、感じとり、関わりを深めることができる。（感性）
- ⑤自然や人との暮らしについて自らの考えを持つことができる。（共生）

学習内容・学習活動：

過程・時間		学習内容	教師の支援・活動
1. 事前 学習	学習 1	○学習のオリエンテーション（全体） ・単元のテーマ、ねらい、学習活動の計画・日程 到達目標（課題）を知る。 ・活動が個人、班、クラス、全体で行うものに分かれているために班分け。	・学習活動の展開図の作成と配付 ・班分けの支援 ・学習ノート（ポトフリオ）の作成
	学習 2	○活動内容の計画（班） ・活動内容の選定 個人、班、クラス、全体の活動案を選定する。 ・全体とクラスの活動の決定に基づき、班の活動と時間を決める。	・活動の種類や方法について施設の資料や従来資料を紹介する。 ・児童生徒の意見に基づき決定を支援する。
	学習 3 4	○活動の方法を知る（個人、班、クラス、全体） ・活動に必要な知識、技能を見つける。 ・作業用具、生活用具を考える。 ・活動によってはゲーム等での楽しみ方を考える。	活動の日程と時程の作成  ・知識、技能の確認 ・保護者との連携

	学習 5 6 7	○活動の事前実習 ・知識と技能の学習（身につける） ・基本的・共通のイベントの事前学習（集い、ファイヤ-での挨拶の方法や歌。食事のメニュー・調理法） ・しおり等の作成	・専門的指導員の活用 ・活動の支援，補助 ・一斉指導による共通理解 ・「ねらい」に沿った学習であるかの評価
	学習 8	○自らの「ねらい」（意味づけ）を確認する。 ・単元のテーマ，ねらい思い出して <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 10px;">           個人として，どんなにありたいか。            仲間に，何ができるか。            では，具体的な行動はなにか。         </div> <div style="margin-left: 10px;">ポ-トフォリオ</div> </div>	・児童生徒の意味づけが <u>ねらい</u> から外れることのないように確認する。 ・ポ-トフォリオ に記録させる。
2. 野 外 実 施 習 設	学習 9 ） 19	○1泊2日の野外学習 ・活動を楽しみ，やり通す。	・専門的指導員の活用 ・安全と円滑な活動に配慮する（特に共生の活動） ・ <u>ねらい</u> から逸脱した活動にならぬように配慮。
3. 事 後 学 習	学習 20 ） 22	○活動の振り返り（自己評価と相互評価） ・自らの <u>ねらい</u> に沿って活動できたか確認する。 <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 10px;">           何ができたか。誰にできたか。            どのようにできたか。            これからできること。         </div> </div>	・ポ-トフォリオ に記録させる。 ・友だちと話し合わせ，相互に活動を振り返らせる
	学習 21 ） 22	○活動のまとめ ・資料の整理，ポ-トフォリオ の整理，成果の整理 ・班ごとに学習の経過や活動を発表する。	・教師のポ-トフォリオ の集約 ・児童生徒のポ-トフォリオ の集約 ・総括的評価

#### 評価（評定）

①集団規準準拠評価（相対評価）⇒目標規準準拠評価（絶対評価）

・ねらいの明確性と観点の整合性（関心・意欲・態度，思考・判断，知識・理解・技能）

← 長期 ———— 短期 ———— 短期 ————

②「総合所見及び指導参考事項」欄の活用…例：個人内評価，期待と可能性の評価

③総合的な学習の「時間」の評価…単元のある時間，単元全体を通した時間⇒ポ-トフォリオの活用

#### 参考文献

- 1) くもんファミリー調査 Vol.36 (1998) 「生きる力」を考える。
- 2) 三浦健治 「豊かな学び」の保障 長崎大学教育学部附属小学校初等教育研究発表会 (2002.2.7)。
- 3) 「総合的な学習」実践研究会編 「総合的な学習の実践事例と解説」 第一法規 (1999～2001)。
- 4) 森田勇造編 「野外文化教育の展開」 明治図書 (1995)